

令和元年度 釜ヶ淵地区町政懇談会

開催日時 令和元年 11 月 22 日（金）午後 7 時～午後 8 時 30 分

開催場所 釜ヶ淵公民館

出席者 立山町 舟橋町長、酒井副町長、大岩教育長、
青木総務課長、野田農林課長、松野水道課長、青木教育課長、
池田建設課長、堀住民課長

地元議員 荻生議員

釜ヶ淵地区自治振興会 栗田会長

企画政策課 林課長、森主任、細木主事、山田

参加者数 40 名（うち町職員 8 名）

1 挨拶

町長挨拶

2 懇談会

（1）町からのお知らせ

- ① 立山町の水道管路緊急更新と水道料金の改定について（水道課長から説明）
- ② 浄化槽設置管理事業について（水道課長から説明）
- ③ 台風 19 号に伴う災害ごみの受け入れについて（住民課長から説明）

（2）意見交換

（栗田自治振興会長：地区協議事項①～④についての説明）

① 小学校の適正配置について

10 月 16 日に釜ヶ淵小学校と立山小学校の統合問題について、教育委員会から第 1 回目の説明会が開かれたが、納得できる話ではなかった。小学校の適正配置について、今後、町として、釜ヶ淵小学校をどうしていくのか、意見を聞きたい。

（教育課長）

平成 25 年度に「立山町立小学校適正配置検討審議会」が設置され、10 年後の適正配置について協議が始まった。少子化問題への対応や子ども達の健全育成、教育環境のあり方、小学校の適正配置について審議が行われ、平成 25 年度末に第 1 回目の答申を受けた。

その答申では、

- ・学校配置については、地理的な繋がりや全町的なバランスを重視すること
- ・学校統合の際は、既存の校舎を活用すること
- ・立山中央小学校については、児童数だけではなく通学区域を含めて、これ以上大規模化しないこと

- ・短期的な取り組みとして複式学級がある学校を統合し、すべての学校で単式学級とすること
- ・長期的な取り組みとして、少子化の進行を見据え、1学年の児童数を最小20人程度となるよう学校統合を行うこと

等が示された。

これらを踏まえ、平成25年度の審議会基本方針の維持と全町的な学校統合の枠組みについて検討することを目的に、子どもの実数が推測できる平成30年度に再び審議会を開催した。そこでは、釜ヶ淵小学校と立山小学校を統合する5校案が示され、平成31年3月27日に答申を受けたところである。

この答申の概要については、10月16日に釜ヶ淵小学校で、保護者や地区役員の皆さんを対象に小学校適正配置に関する説明会を開催し、説明した。その際に「釜ヶ淵小学校の統合は決定事項か」という質問があった。統合案は、審議会で示されたもので決定事項ではないが、今後ますます児童数が減少していくことを考えると、統合について皆さんのご理解をいただきながら進めていくことが重要であると考えている。

また「小規模の学校で特認校制度を導入し、児童数が増加した事例もあるが、審議会では特認校に関する議論があったのか」という質問もあった。審議会では特認校に関する議論はなかったが、特認校制度については、新瀬戸小学校の存続についての協議の際に同様の提案があり、事業効果に疑問があることや、毎年制度を維持していくことが困難であること等から、地区で事前に取り止めた経緯があったことを伝えた。

このほか「立山中央小学校への通学を希望する場合、新瀬戸小学校の統合の際と同様の対応をしてもらえるのか」という質問もあった。新瀬戸小学校の統合が検討された際に、統合先の学校には全員一緒に行くということで話し合われ、統合先を立山小学校とすることを決定された。しかし、4・5世帯の方が立山中央小学校への転校を強く希望され、地区や保護者会で何度も議論が交わされたが、どうしても立山中央小学校へ転校させて欲しいという世帯が2つ残った。これ以上議論を進めるとコミュニティの崩壊に繋がることも懸念されたため、この特例を認めて欲しいという保護者会の苦渋の決断に対して、教育委員会で容認した経緯があった。

推計では、釜ヶ淵小学校における令和6年度の新入学児童の数は3人の予定。一定規模の児童数により、子どもが切磋琢磨する教育環境の整備は大変重要な課題であり、これらの問題を解消するためにも、釜ヶ淵小学校の統合により学校規模の適正化を図っていきたいと考えている。また、答申内容を重視し、先に統合済みの芦峠・新瀬戸校区や町内全体とのバランスを考え、立山小学校を活用した統合を、地域がまとまって例外なく実施されることをお願いしていく考えである。なお、今年度中には未就学児の保護者も含めて、小学校適正配置について説明会を開催し、その後も引き続き協議していく。

② 釜ヶ淵保育所閉所後の対応について

2019年3月に釜ヶ淵保育所が閉所となり、地区としては大変寂しい気持ちである。閉所後も地区としてなにか利活用方法がないかを考えてみたが、良い方法は見出せない

かった。この件は、10月に町に対し文書を提出しているが、あらためて、取り壊すのか、再利用するのか、取り壊した場合更地をどう利活用するのか、町の考えを聞かせてほしい。

(総務課長)

本年3月末で廃所した釜ヶ淵保育所について、今年度、アスベスト調査を実施した。調査の結果、外壁等にアスベストの含有を確認したことから、町の責務として、来年度、解体撤去する予定としている。解体撤去後の土地の利活用については、地元の釜ヶ淵地区の皆さんと協議を行い、進めていきたいと考えている。

③ 空き家対策について

当地区においても、年々空き家が増えており、今年度の地区要望でも空き家問題を取り上げている。崩壊寸前の空き家も見受けられ、積雪による倒壊や台風による火災の危険性もあるので、町としてどう対応していくのか聞かせてほしい。

(建設課長)

まず、地区要望のあった釜ヶ淵小学校北側の土蔵や樹木については、10月16日、町の建築士の資格を持った職員による詳細な調査を実施した。現在、その結果を取りまとめている最中であり、11月29日に予定の立山町空家等対策協議会に諮ることとしている。

町の空き家対策全般については、空家法により策定した立山町空家等対策計画に基づき実施している。具体的には、地区や近隣の方などから相談があった際、まずは町職員により状況を確認し、所有者等に対し、改善又は除却の依頼や空き家バンクの紹介を行っている。その中でも危険な状況が改善されない空き家については、協議会の意見を聞いた上で、特定空家等と認定し、所有者等に対し助言・指導等を行っている。

町ではこれまで、空き家実態調査結果や地区からの相談等から、危険な空き家4件を特定空家等として認定した。そのうち、3件が所有者等により解体されている。

平成30年度住宅・土地統計調査の結果によると、町の空き家率は10.0%と県全体の13.3%を下回り、市町村別でも2番目の低さとなっている。今後、少子高齢化が進むことにより、空き家率も上がっていくことが想定されるが、引き続き、空き家の相談等に対して、除却・利活用の両面から適切に対応していく。

④ 従前からの協議事項について

毎年地区要望としても上げているが、消雪設備の充実、道路側溝等の整備について話を聞かせてほしい。

(建設課長)

消雪施設の拡充については、設置に多額の費用がかかることに加え、設置後の維持管理や安定的な水源の確保などの課題があることから、現在、町では新たな消雪施設

の設置は行っていない。老朽化した既存の消雪施設については、限られた予算のなかで、計画的に、リフレッシュ事業や維持補修に取り組んでいる。既存の消雪施設に不具合がある場合は、ご連絡いただきたい。

道路舗装の改修については、今後も道路パトロール等を通じ、路面状況を把握するとともに、舗装版のひび割れや剥がれなど、現地の状況を踏まえ、補修について検討していく。また、側溝等の整備については、町では、通学路を中心に側溝の蓋掛け等により歩行空間の確保を進めていく。なお、現在、末三賀地区からの要望を受け、末三賀中部公民館前の町道末三賀道源寺線の道路拡幅事業に、昨年度より工事着手しており、早期に事業効果を発揮できるよう努めていく。

(3) 自由意見

- 釜ヶ淵小学校を無くしてほしくない。近所で近々結婚する人がいる。保育所も学校も無い地区に若い人が住んでくれるか心配である。地区の児童たちは、岩嶺保育所への通所を勧められるが、多くが下段保育所に通っている。今後、小学校に進学するに当たり、立山中央小学校ではなく、立山小学校に通学となると、友達とも離れ離れになってしまう。できれば、立山中央小学校に行かせたい。

(教育長)

学校が無くならないようにしてほしいという気持ちは十分に理解できる。平成28年度に新瀬戸小学校が立山小学校と統合、平成30年度には日中上野小学校が高野小学校と統合したが、統合の際には、いつも地区や保護者の皆さんと話をし、折り合いをつけてきた。もちろん釜ヶ淵小学校についても、同様に進めていきたい。

確かに、学校が無くなると、若い人が外に出て行ってしまうという話はよく聞く。今後、全国的に少子化が進んでいく中で、学校の存続をどうするかは避けては通れない問題である。ただ、学校とは、存続をどうするか、大小規模をどうするかではない。一番に考えないといけないのは、子どもの学習環境である。

社会的な事情も踏まえつつも、子どもたちが互いに切磋琢磨し、高め合える環境作りが最も大事だ。

今後、皆さんと話し合いながら、互いに納得できるよう進めていきたい

- 現在、熊の出没が相次いでいるが、防災行政無線が聞こえない。「こちらは立山町です。」しか聞こえないので、もっと聞こえるようにしてほしい。

(総務課長)

町内に防災行政無線は60基設置しており、釜ヶ淵地区については、釜ヶ淵公民館、米道公民館、沢中山公民館、野村公民館の4か所に設置している。色々な地区から設置要望はあるが、1基当たり多額の費用がかかることや無線を増やしすぎると、隣の無線と共鳴しハウリングしてしまうこと、風が強かったり、車に乗っているなど周囲の状況によっても聞き取りづらいこともあったりと、増やせば良いというものではない。現在、熊の情報については6:30と16:30に放送をかけている。緊急時には、その都度放送をしているが、聞き取れない場合は電話で確認することも

できる。また、それ以外の非常時には、HPやツイッター、エリアメール、広報車でのパトロールを活用して情報伝達をしていく。

(町長)

防災行政無線の音声は、役場職員がパソコンに打ち込んだ言葉を機械が読み上げるもので、数週間前までは男性の声であったが、現在は女性の声になっている。

防災行政無線が聞こえづらいという声が各地区から上がっていたことから、2年前に専門業者に改めて点検してもらったところ、設置を検討した方が良い箇所が2か所見つかった。その後、設置しようとしたところ、音声がうるさいという理由で1か所設置を断られた。設置できないのはお金の問題だけではない。

また、地区を限定して流すアナウンスもあるため、地区が隣接している場所では中途半端に隣地区の音声聞こえてしまい、聞き取りづらいと勘違いされることもある。防災行政無線の内容は、076-462-0097に電話すれば24時間確認できるので、緊急時にはそちらもご利用いただきたい。スマートフォンを持たない人への対応については、今後考えていきたい。

- 道路について、今年度、一部の側溝工事が行われているが、道路の中間部分のみで、排水がきちんと行われるのか不安である。また、末三賀中部公民館から道路(県道 西大森寺坪線)に出る部分を整備してほしい。カーブになっており、特に、雪が降ったとき危険である。

(建設課長)

末三賀中部公民館の前の道路については、地域の皆さんの理解と協力の下、昨年度から工事に着手することができた。今年度は、地域の方の宅地などの状況から、中間部分から工事を進めている。危険な箇所からきちんと工事をしてほしいというのは気持ちはわかるので、皆さんと相談をしながら今後も進めていく。なお、この事業は国の交付金事業であるが、予算の関係上、なかなか一気に進められていない。国に要望して、事業効果がきちんと出るよう進めていきたい。

※最初に回答は不要と発言

- 釜ヶ淵地区は農業をしている方が多い。立山町の主要産業は農業であり、土地柄どんな野菜や果物も良く育つと思うのだが、町の方針がきちんと定まっていないため、ラ・フランスやネギの栽培も中途半端である。米も限界なので、トマトやイチゴを作ってはどうか？
- 立山公園線の米道・寺坪から望む立山連峰は全国一の景色だと思っており、観光地として売り物になるのではないかと思う。4車線に拡幅して、うち2車線を停車スペースにしてみてもどうか？
- 自分の子どもは釜ヶ淵保育所に通っていたが、閉所に伴い下段保育所に通ってい

る。今後、釜ヶ淵小学校に進学し、統合後に立山小学校に通うことになるが、引越しもしていないのに、転々としなければならない。せっかく友達ができても、バラバラになるのは可哀想である。

(教育長)

友人関係は大切に、それが保護者の安心にもつながることはとてもよくわかる。立山南部小学校としていく方針はあくまで報告であり、決定ではない。今後、意見を募り、話し合いを重ねて決めていきたい。

- 統合し、立山南部小学校という名前にすることに違和感を感じる。校歌や校章も新しくなるだろうが、南部という言葉は馴染みがないので、やはり立山小学校は立山小学校、釜ヶ淵小学校は釜ヶ淵小学校のままでそれぞれ良いのではないか。

(教育課長)

学校名については、審議会が統合についての話し合いをする際につけた仮称である。立山小学校と釜ヶ淵小学校が統合することになったとしても、名称が立山南部小学校になるわけではなく、話し合いをしながら決めていく。

- 先ほど、立山中央小学校については、児童数だけではなく通学区域を含めて、これ以上大規模化はしないと行ったが、このままいけば、5～10年後に立山中央小学校の児童も減少するはずであり、釜ヶ淵小学校児童の受け入れも可能なのではないか。地域住民に寄り添った対応をお願いしたい。

(教育課長)

現時点で令和6年度の子どもの実数予測では釜ヶ淵小学校が51人、立山小学校が64人の計115人。それ以降の数値については出生数などにより変わってくるため不明であるが、10～20年後の国の数値予測では統合後の児童数は計85～90人となっている。そうなった場合、1学年12～15人となり、チームスポーツをする人数は十分だと判断できるため、切磋琢磨する環境が整っていると言える。

- 3年半前に東京から移住してきたが、一番良かったのは、釜ヶ淵小学校に通っている子どもがすごく楽しそうなことだ。東京は小さい頃から競い合うことに必死で、子どもがのびのびと育つ環境ではない。本当に移住して良かったと思っている。

それを踏まえ、先日の会合で小規模特認校について提案した。以前、新瀬戸小学校を特認校にするという話も出たが結果的には取下げられた。その時の資料を見せてもらいたいと教育課にお願いしたが、検討資料はなにも残っていないという回答であった。今年度、入善町でも設立され、南砺市でも小規模小中一貫校ができる予定であり、全国の過疎地で上手くいっている例もある。今一度検討いただけないか？

(教育課長)

ほかの小学校から校区をまたいで通学してもらうには、地域の資源や特色といった魅力が必要である。まずは、地域の皆さん、保護者の皆さんでその魅力について話し合ってもらい、それを私たち教育課に教えてほしい。

- 立山町は美しい山々があり素晴らしい町だ。しかし、グリーンパーク吉峰などを見ていると、お年寄りばかりで子どもの姿がまったく見られない。もっと子どもの集まる町にしてほしい。

先日、テレビで不登校の学生たちを集め、実際に住んで田舎の良さを知ってもらい、町を活性化する番組を観た。そんな子どもを中心にしたまちづくりをしてみてもいいだろうか？今の時代、ネットでどんどん広がるし、活気も出てくるだろう。

(町長)

子どもの問題については、今後、自分の子どもをどう育てていきたいのか、どういう方向でいきたいのかを、地元・未就学児の保護者の方々と話をまとめていただきたい。言われたこと全てを実施できるわけではないので、まずはその話し合いの結果を待ちたいと思う。

- 最近、立山インターからのカーブのある道（県道富山立山公園線）を拡幅したが、釜ヶ淵地内でも同様に道路拡幅をして、美しい景色が見られるようにしてほしい。

(町長)

県道は元々町道であったが、町での舗装に限界を感じ、お願いをして県道にしても良かった。しかし、県の予算でも時間のかかる事業であり、町としても毎年重点要望としているが、なかなか工事が進まないのが現状である。町の事業であれもこれもと何にでもお金を使えるわけではない。本当に困っている人、命に関わるものに優先的に費用をかけていく姿勢だ。

- 県内で1番のスポーツ施設を作って、立山町の名を広めてほしい。

(回答なし)

- 水道管の破裂が問題になっているが、下水道管は破裂の心配はないのか？

(水道課長)

基本的には問題ない。管は耐震性能も備えており、耐用年数は50年である。なお、道源寺地区は平成15～18年度にかけて、下水道管を整備している。

- 釜ヶ淵小学校を残して、立山小学校を無くすという考えはないのか？

(教育長)

答申内容としては、南部にある学校の中では、立山小学校が地理的に中心となるため残すこととした。答申で釜ヶ淵小学校を残すという案は出ておらず、また、それができないという話も出ていない。釜ヶ淵小学校を残すという選択肢も含めて、今後話し合いをしていきたい。

(町長)

自分が町長になったとき、まさか小学校の存続問題が出るとは思っていなかった。もし統合するとしても、町営住宅が近い釜ヶ淵小学校の方が残りやすいとさえ感じて

いた。現在、釜ヶ淵町営住宅は空室が多く困っているので、江崎町営住宅の入居募集を中断し、釜ヶ淵町営住宅に住む学生に地鉄定期券の助成をするなど、人が集まるよう努めているところである。

釜ヶ淵小学校については、今年度は空調設備の更新を実施し、来年度には外壁や内装の改修をする予定である。まだ予算化していないが、体育館の屋根も補修しようと考えている。

- 町道の交差点で、オレンジと白のポールが立っているのをよく見るが、効果があるものか？町外ではあまり見かけず、車の通行に邪魔である。

(建設課長)

本来なら歩道を設置すれば一番安全であるが、設置できない箇所もあるので、こういったポールやカラー舗装をすることで、小学生などの歩行者を車の危険から守っている。通学路点検で危険な交差点などを確認し、対応方法も含め検討し設置しているものであり、ご理解をお願いしたい。

- 雪のシーズンが始まる。除雪事業者が少なく、時間がかかるのはわかるが、極力仕事に行く前に除雪を終えてほしい。

(建設課長)

除雪は深夜2時頃から業者が出動し、通勤・通学に支障がないように作業している。しかし、一晩に40～50cm積雪するような時や圧雪がひどい時などは、間に合わないこともある。また、オペレーターの高齢化や人員不足の点もあるが、最善を尽くしており、ご理解をお願いしたい。

3 閉会

荻生議員挨拶

終了